

平成19年度：特色GP関連事業

「チャレンジ夢講座」

実施報告書



2007年 7月31日

高 知 工 科 大 学

教育講師室作成

目 次

I. 企 画 内 容	2
II. 「講演テーマ」と「講師紹介」	3
III. 実 施 状 況	4
1. 受 付	4
2. 開 会 挨 拶	4
3. 講 演 － 1	5
4. 講 演 － 2	5
5. 真剣に聴く学生達	6
IV. 出席者とアンケート	8
1. 出席者数	8
2. アンケート回収状況	9
3. 教育講師別に見た1年生の動員状況	10
4. アンケート内容	11
1) Q-1 の分析	12
2) Q-2 の分析	16
3) Q-3 の分析	17
4) Q-4 の分析	20
5) Q-5 の分析	23
V. 添 付 資 料	24
1. 「チャレンジ夢講座」アンケート	
2. 「チャレンジ夢講座」報道記録	
VII. 終 わ り に	

I. 企画内容

1. プログラム名：「特色GP：チャレンジ夢講座」

2. 事業企画の根拠：

- ・平成16年度、文部科学省「特色のある大学教育支援プログラム（特色GP）」の採択を受け、平成19年度の事業として本「特色GP：チャレンジ夢講座」を企画。本講座は通算4回目の公開講座である。

3. 講座の目的：

- ・卓越した“開拓者魂”や“チャレンジ心”を持って活躍しておられる方をお招きし、本人から直接“チャレンジ心”“その生き様”“その体験”等を聴くことを通じて、

1) 学生には：

- ・「チャレンジすることの大切さ」「夢を持って生きる事の大切さ」「次世代を担う者としての心構え」等を啓くチャンスを提供する。

2) 一般の方には：

- ・特別講座の公開を通じて、高知工科大学における学生啓発教育活動（特色GP）を紹介し合わせて一般市民の方にとっても高知工科大学が身近な学びの場として親しみをもって頂くチャンスを提供する。

4. 講座内容

1) 日 時：2007. 6. 23（土） 13：00 ～ 16：00

2) 場 所：〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ内185
高知工科大学 C102教室

3) 講 師：

(1) 鳥谷浩志（とりや ひろし）：ラティス・テクノロジー（株）最高経営責任者

演 題：「仮演題：ラティス・テクノロジー創設への道のり」

講演時間：13：10～14：10

(2) 山口 徹（やまぐち とおる）：

演 題：「うどん屋さんの可能性」

（モノ作りの魅力に取り付かれた男のひたむきな姿）

講演時間：14：40～15：40

◎ 当日、「ロボット：鬼丸君の実演」あります。

5. 受講者：高知工科大学全学生及び教職員、一般人（大歓迎致します）

6. 参加費：無 料

7. 参加申し込み：当日、自由参加（事前申込み不要）。

Ⅱ. [講演テーマ]と[講師紹介]

1. 講演 — 1 :「ラティス・テクノロジー創設への道のり」



写真—1：鳥谷浩志 講師

◆ 講師紹介

- 1983 年 東京大学理学部卒業, (株)リコー入社
- 1989 年 理学博士 (東京大学)
- 1997 年 ラティス・テクノロジー設立・入社 技術統括部長
- 1999 年 同社社長
- 2006 年 同社 CEO

2. 講演—2 :「うどん屋さんの可能性」



写真—2：山口 徹 講師

◆ 講師紹介

- ・ 土佐が世界に誇るロボット開拓者 “夢さん”
- ・ “夢思考” の主

Ⅲ. 実 施 状 況

学生193名、その他関係者含めて206名の参加があった。
講演テーマの良さは勿論、各教育講師の陰の協力の賜の結果であった。
学生は真剣に講演に聞き入った。

1. 受 付



写真一 3：講座受付風景

2. 開会挨拶



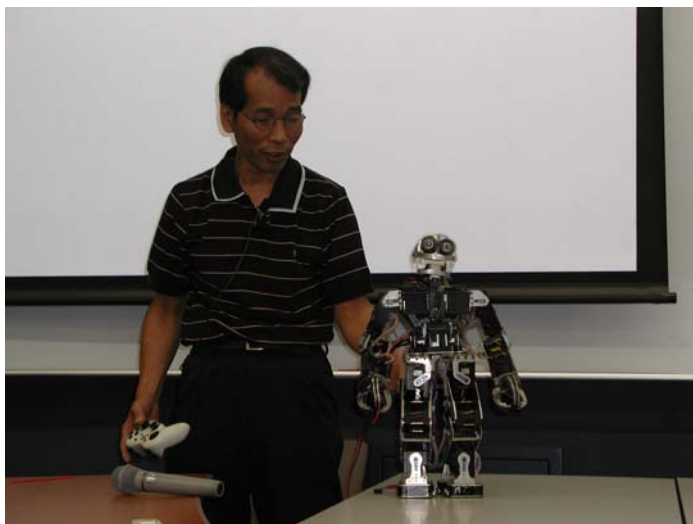
写真一 4：坂本教育本部長の挨拶

3. 講演一1



写真一5：鳥谷先生ご講演

4. 講演一2：



写真一6：山口 徹 先生とロボット鬼丸君



写真一七：山口先生：人は夢追い人

5. 真剣に聴く学生達



写真一八：真剣に聴く学生達（1）



写真一9：真剣に聴く学生達（2）

Ⅳ.「出席者とアンケート」

1. 出席者数

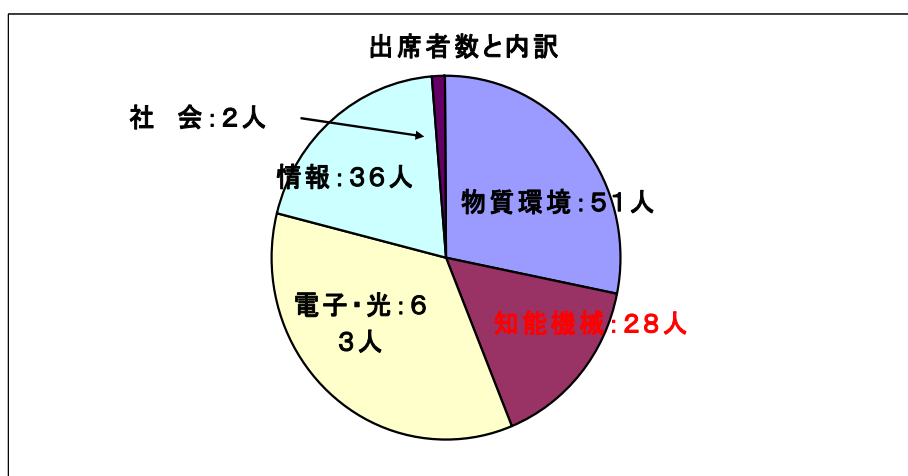
本講座の出席者総数は206名であった。下表—1に学生出席者数とその内訳を示す。

表—1:出席者数と内訳 (人)

	修 士	5年生	4年生	3年生	2年生	1年生	計
物質環境			1			51	52
知能機械	2	1	3		3	28	37
電子・光				2		63	65
情 報					1	36	37
社 会						2	2
	2	1	4	2	4	180	193

学科毎の出席者数を下図—1に示す。

図—1:学科毎の出席者数



その他の参加者 (人)

高 校 生	一 般	教 職 者	計
3	4	6	13

出席者数に関しては、社会が2名で、他学科に比べて極めて少なかった。

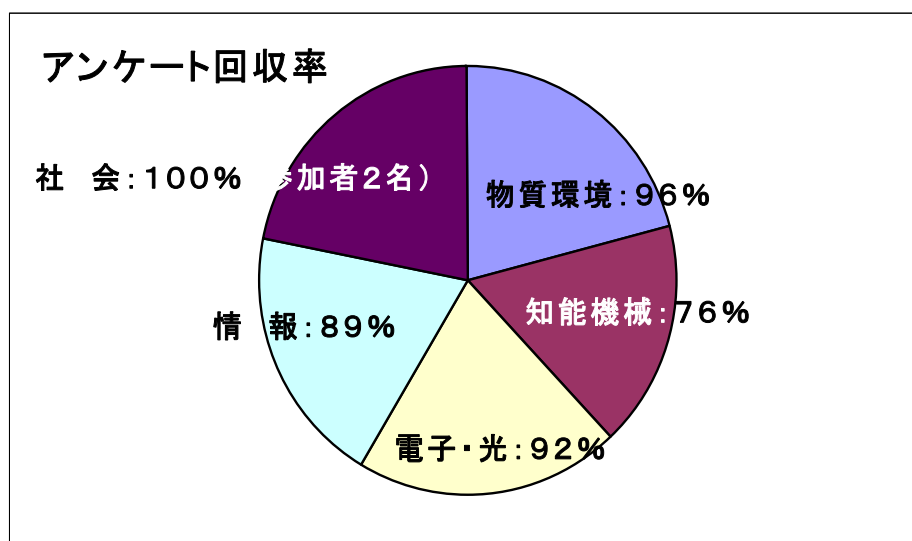
2. アンケート回収状況

本講座に関するアンケート回収率は89.6%と殆どの学生からの積極的な提出があった。アンケート回収状況を下表一2と図一2に示す。

表一2：アンケート回収状況

	出席者数（人）	提出者数（人）	回収率（%）
物質環境	52	50	96
知能機械	37	28	76
電子・光	65	60	92
情 報	37	33	89
社 会	2	2	100
	193	173	89.6

図一2：アンケート回収率



3. 教育講師別に見た1年生の動員状況

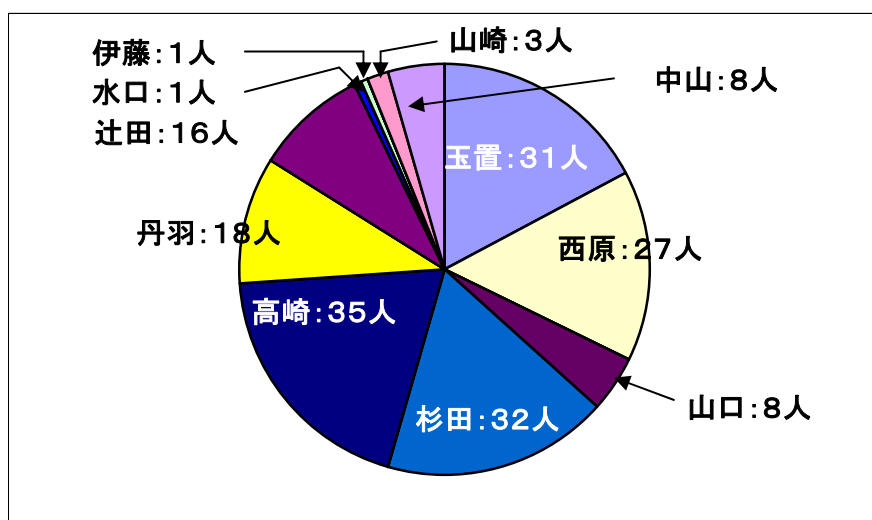
教育講師別に見た1年生の動員状況を表一3と図一3に示す。

表一3：教育講師別に見た1年生の動員状況

(単位：人)

	物質環境	知能機械	電子・光	情 報	社 会	合 計
玉 置	3班：8 7班：7		1班：10 5班：6			31
西 原	4班：8 5班：10		2班：9			27
山 口		3班：4 7班：4		2班：0 6班：0		8
杉 田		6班：8	3班：10 6班：8	1班：6		32
高 崎	1班：8 6班：7		4班：9 7班：11			35
丹 羽	2班：3	2班：4		4班：3 8班：8		18
辻 田		1班：1 5班：4		3班：7 7班：4		16
水 口					1班：1 3班：0 5班：0	1
伊 藤					2班：0 4班：0 6班：1	1
山 崎		4班：3				3
中 山				5班：8		8
柳 井	担 当 班 な し					
合 計	51	28	63	36	2	180

図一3：教育講師別の学生動員数



“良き講演会”を開催しても、積極的に参加する意識の薄い学生が多い昨今、聴衆者集めに最も心を砕く。本「チャレンジ夢講座」開催に当たり、各教育講師に対し、学生が一人でも多く参加し、良き学び、啓発のチャンスに出会えるようにとの思いを込めて積極的な参加指導とSS授業への取り込みをお願いした。

出席した学生の殆どは、スタディスキルズ授業の一環として取り込んで頂いた教育講師担当の学生であった。

参加した学生は、個々に、良き「チャレンジ」、「夢」に関する啓発を受けていることを考えると、学生への「良き出会いのチャンス喪失」は避けなければならないことである。今後とも、更なる各教育講師の積極的な学生に対する指導が期待される。

4. アンケート内容

本講座で配布した「アンケート」の設問は以下の通りである。

- Q1：心に留まったキーワードを5～10個挙げて下さい。
- Q2：上記キーワード中、最も深い感銘を受けたもの2個につき説明して下さい。
- Q3：今、あなたが“チャレンジしようとしていること”は何ですか。
どのように取り組んでいますか。
- Q4：あなたの“夢”をお聞かせ下さい。
- Q5：本日の講演に関しての感想、ご意見をお書き下さい。

1) Q-1 (心に留まったキーワード) の分析

(1) キーワードの数

各学科別のキーワード数の分布を下表―4と図―4～図―8に示す。

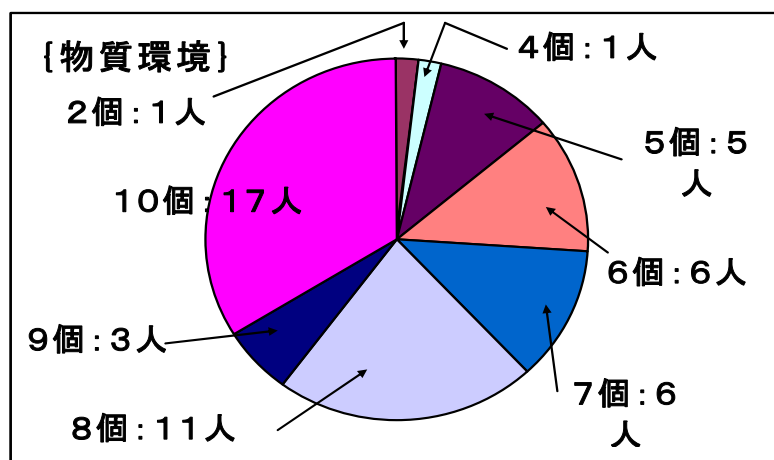
キーワードを5個挙げた学生が約10%、6個挙げた学生が約13%、7個挙げた学生が約13%、8個挙げた学生が約14%、9個挙げた学生が約10%、10個挙げた学生が約32%であった。熱心に講演に耳を傾けた結果が伺える。

表―4：学科別のキーワードの分布

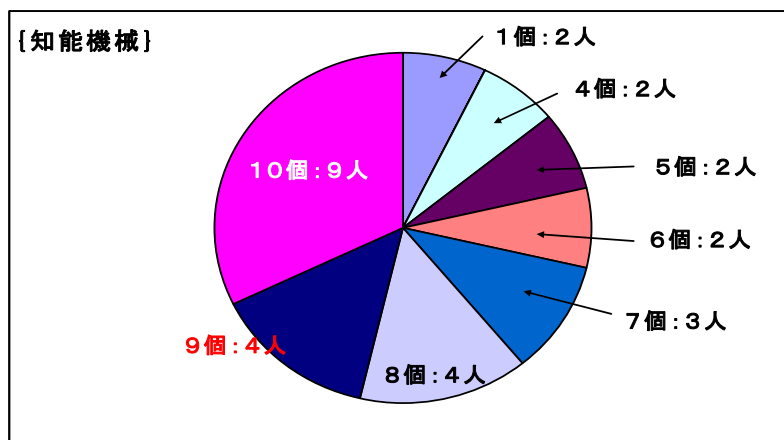
(単位：人)

学科 個数	物質環境	知能機械	電子・光	情 報	社 会	合 計
1	0	2	0	0	0	2
2	1	0	3	0	0	4
3	0	0	0	0	0	0
4	1	2	1	2	0	6
5	5	2	5	5	0	17
6	6	2	13	2	0	23
7	6	3	9	5	0	23
8	11	4	7	2	0	24
9	3	4	7	3	1	18
10	17	9	15	13	1	55
計	50人	28人	60人	32人	2人	173人

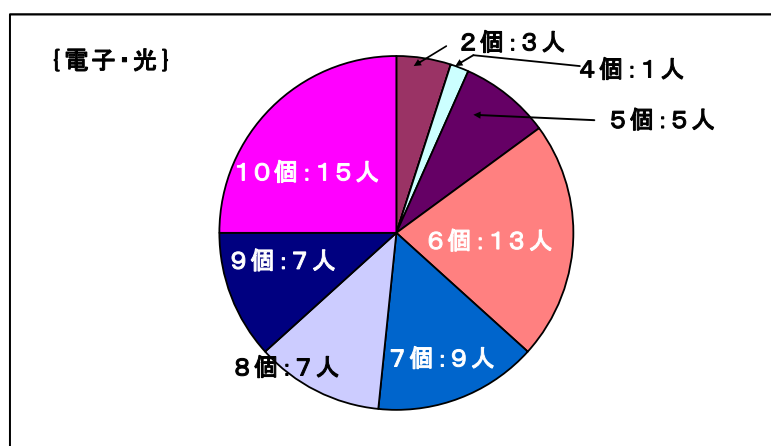
図―4：物質環境学科



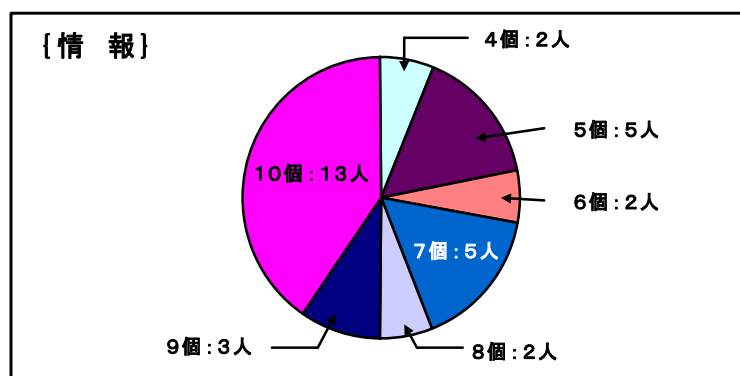
図一5：知能機械学科



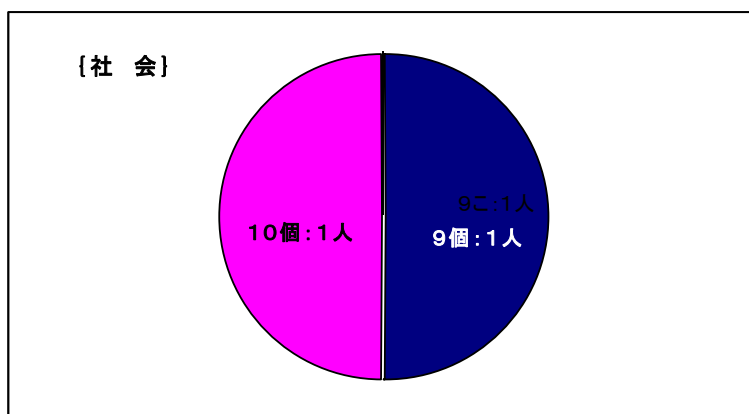
図一6：電子・光学科



図一7：情報学科



図一八：社 会学科



(2) キーワードベスト10

上記のキーワードから講演者別、学科別に“ベスト10”を選ぶと下表一5～表一8の通りとなった。各講演者の主張が学生に届いているのが分かる。

表一五：物質環境：キーワードベスト10

鳥 谷 浩 志 講 師 「ラティス・テクノロジー創設への道のり」	山 口 徹 講 師 「うどん屋の可能性」
1. XVL・・・・・・・・・・28人	1. 夢・・・・・・・・・・10人
2. ロゼットストーン・・・・・・・・26人	2. ロボット・・・・・・・・7人
3. 夢とは・・・・・・・・・・16人	3. 鬼丸・・・・・・・・・・6人
4. ホーソン効果・・・・・・・・12人	4. 生命の進化とロボットの進化は同じ ・・・・・・・・・・5人
5. 創造的発明・・・・・・・・11人	5. 夢と現実・事実・・・・・・・・5人
6. 改良的発明・・・・・・・・10人	6. 逆もなた真なり・・・・・・・・4人
7. 市場創造型ベンチャー・・・・10人	7. ロボット作りのきっかけ・・・・3人
8. イノベーション・・・・・・・・10人	8. 二足歩行ロボット・・・・・・・・3人
9. 時代の潮流を読む・・・・・・・・9人	9. 本を全部書き出した・・・・・・・・2人
10. キャジュアル3D・・・・・・・・9人	10. ライントレースロボ・・・・・・・・2人

表一六：知能機械：キーワードベスト１０

鳥 谷 浩 志 講 師 「ラティス・テクノロジー創設への道のり」	山 口 徹 講 師 「うどん屋の可能性」
1. XVL・・・・・・・・・・12人	1. 夢追い人・・・・・・・・・・5人
2. ロゼットストーン・・・・・・・・9人	2. 逆もまた真なり・・・・・・・・5人
3. 創造的発明・・・・・・・・・・8人	3. 退化もまた進化・・・・・・・・4人
4. 改良的発明・・・・・・・・・・8人	4. 生命の進化とロボットの進化は同じ ・・・・・・・・・・3人
5. 夢・・・・・・・・・・8人	5. 鬼丸・・・・・・・・・・3人
6. ホーソン効果・・・・・・・・6人	6. 鬼・・・・・・・・・・3人
7. 時代の潮流を読む・・・・・・・・6人	7. 夢・・・・・・・・・・2人
8. 市場創造型ベンチャー・・・・・・・・6人	8. 二足歩行ロボット・・・・・・・・2人
9. 専門分野を決めて徹底的にやる ・・・・・・・・・・5人	9. 四足歩行ロボット・・・・・・・・2人
10. キャジュアル3D・・・・・・・・3人	10. 鬼河童・・・・・・・・・・2人

表一七：電子・光：キーワードベスト１０

鳥 谷 浩 志 講 師 「ラティス・テクノロジー創設への道のり」	山 口 徹 講 師 「うどん屋の可能性」
1. XVL・・・・・・・・・・32人	1. 鬼丸・・・・・・・・・・13人
2. 夢・・・・・・・・・・25人	2. キラーアプリケーション・・・・9人
3. ロゼットストーン・・・・・・・・24人	3. 逆もまた真なり・・・・・・・・7人
4. 改良的発明・・・・・・・・・・23人	4. 夢追い人・・・・・・・・・・6人
4. 創造的発明・・・・・・・・・・21人	5. 四足歩行ロボット・・・・・・・・6人
5. 時代の潮流を読む・・・・・・・・17人	6. 退化もまた進化・・・・・・・・6人
6. ホーソン効果・・・・・・・・15人	7. ロボット作りのきっかけ・・・・6人
7. キャジュアル3D・・・・・・・・14人	8. 二足歩行ロボット・・・・・・・・5人
8. 信頼出来る仲間・・・・・・・・10人	9. 鬼・・・・・・・・・・4人
9. キラーアプリケーション・・・・9人	10. ロボット・・・・・・・・・・4人
10. イノベーション・・・・・・・・6人	

表―8：情 報：キーワードベスト10

鳥 谷 浩 志 講 師 「ラティス・テクノロジー創設への道のり」	山 口 徹 講 師 「うどん屋の可能性」
1. XVL・・・・・・・・・・16人	1. 鬼丸・・・・・・・・・・5人
2. ホーソン効果・・・・・・・・15人	2. 伸縮構造・・・・・・・・4人
3. ロゼットストーン・・・・・・・・12人	3. グラス洗浄機・・・・・・・・3人
4. 夢・・・・・・・・・・10人	4. うどん屋・・・・・・・・3人
5. 創造的発明・・・・・・・・9人	5. 夢とは事実でない事実・・・・2人
5. キャジュアル3D・・・・・・・・7人	6. チャレンジ・・・・・・・・3人
6. 改良的発明・・・・・・・・23人	7. ロボット作り・・・・・・・・2人
7. イノベーション・・・・・・・・6人	8. ライントレースロボ・・・・2人
8. ラティステクノロジ・・・・・・・・5人	9. ロボット・・・・・・・・2人
9. 不満足であれば満足するよう行動する ・・・・・・・・・・5人	10. 二足歩行ロボット・・・・2人
10. 時代の潮流を読む・・・・・・・・4人	

2) Q-2 (感銘を受けたキーワード) の分析

(1) 最も深い感銘を受けたキーワードの列挙個数分布を下表―9に示す。

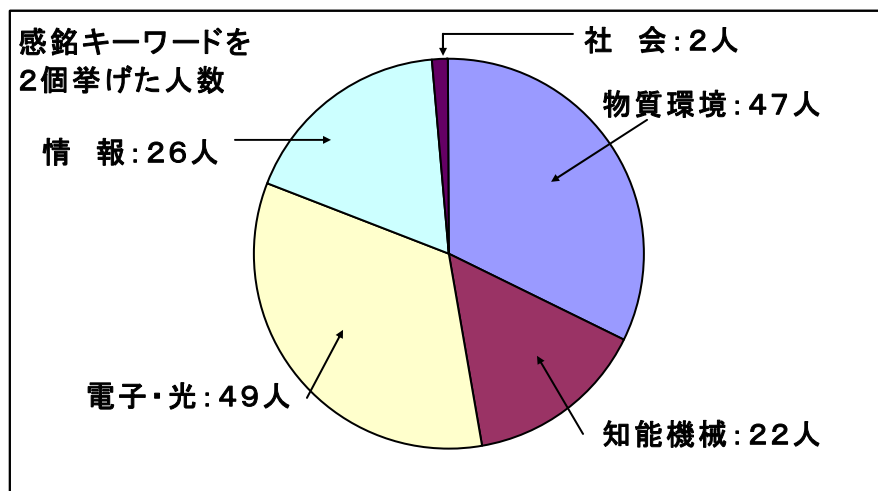
表―9：列 挙 個 数

(単位：人)

学科 \ 数	0 個	1 個	2 個	合 計
物質環境	0	3	47	50
知能機械	0	6	22	28
電子・光	6	5	49	60
情 報	2	5	26	33
社 会	0	0	2	2
合 計	8	19	146	173

2個のキーワードを挙げた学生は約84%、1個を挙げた学生は約11%、挙げなかった学生は約5%であった。そのベスト10を下表―10に示す。

図一９：学科別人数



表一１０：感銘を受けたキーワードベスト１０

「ラティス・テクノロジー創設への道のり」	「うどん屋の可能性」
1. ホーソン効果	1. 鬼丸
2. XVL	2. 夢追い人
3. ロゼッタストーン	3. ロボットの作り方
4. 夢	4. 二足歩行ロボット
5. 3DCAD	5. 逆もまた真なり
6. 信頼できる仲間	6. ロボット作りのきっかけ
7. 大学の内にやっておくこと	7. 生物の進化とロボットの進化は同じ
8. 時代の潮流を読む	8. ライントレースロボット
9. 専門的分野を決め徹底的にやる	9. バックドロップ
10. ベンチャー企業	10. ロボットに人間らしさを出す

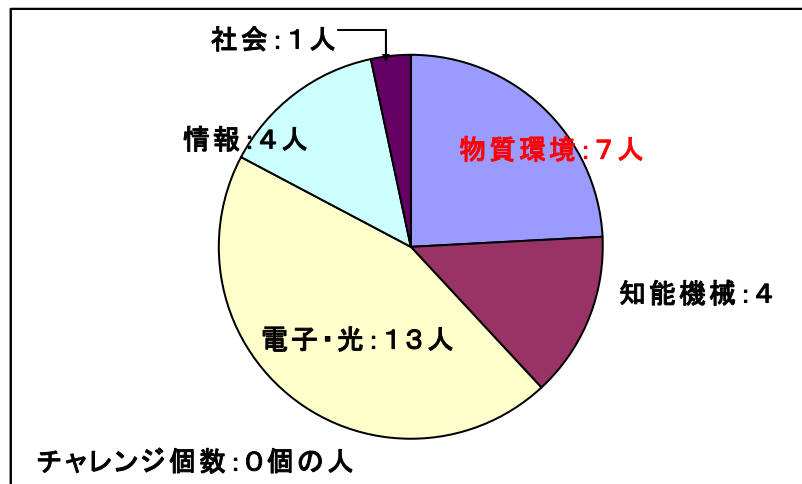
3) Q-3 (あなたのチャレンジ) の分析

「学科別」、「チャレンジ対象個数」別に見た学生数の分布を表一１１に示す。

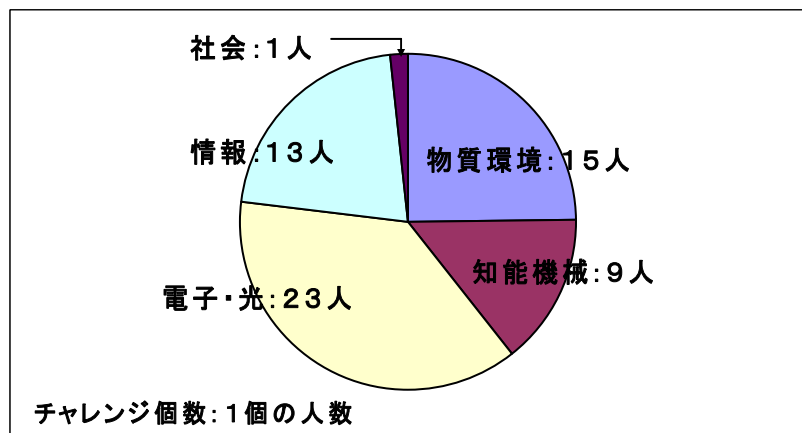
表一１１：チャレンジ対象個数 (単位：個)

学科 \ 数	0個	1個	2個	3個	計
物質環境	7	15	18	10	50
知能機械	4	9	8	7	28
電子・光	13	23	15	9	60
情報	4	13	9	7	33
社会	1	1	//	//	2
計	29	61	50	33	173

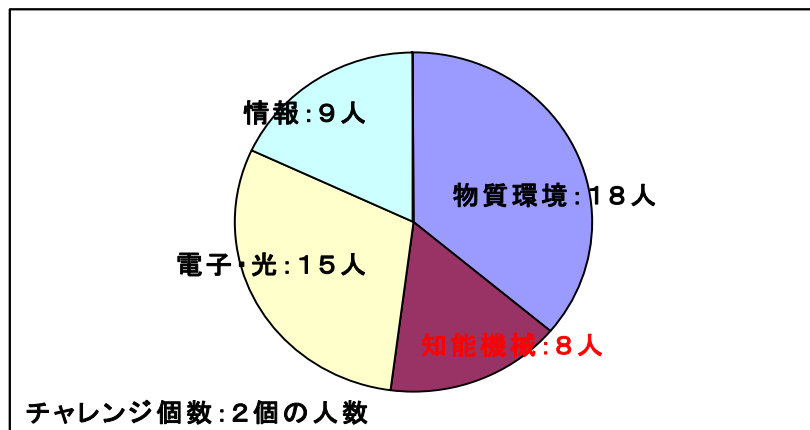
図—10：チャレンジ個数：0個の人数



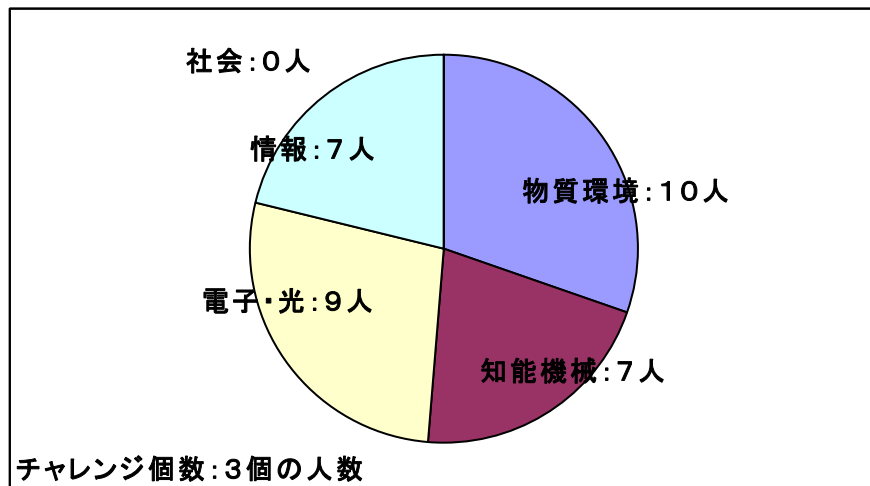
図—11：チャレンジ個数：1個の人数



図—12：チャレンジ個数：2個の人数



図一 13：チャレンジ個数：3個の人数



「チャレンジ対象個数」として3個挙げた学生は、物質環境が20%、知能機械が25%、電子・光が15%、情報が21%であった。

一人当たりの「チャレンジ対象個数」は下表一 12の通りとなっている。

表一 12：一人当たりの「チャレンジ対象個数」

学科	数	個 数	人 数	個数/人
物質環境		50	51	約1.0
知能機械		28	28	約1.0
電子・光		60	63	約1.0
情 報		33	36	約1.0
社 会		2	2	約1.0
計		173	180	約1.0

一人当たりの「チャレンジ対象個数」で見ると、各科ほぼ同じで、平均的に1個/人程度の「チャレンジ対象」を持っていることが伺える。平均2個/人の10期生に比べてもチャレンジ項目少なく、また、内容等を考慮しないとしても、やや寂し感がするのは禁じ得ない。

その「チャレンジ内容」を学科別に、内容の善し悪しではなく、その一部を下表一 13に示す。内容はバラバラであり、任意に記載した。添付資料で内容の確認をお願いする。

表－１３：チャレンジ項目

学 科	チャレンジ項目の一部	
物 質 環 境	◆ＴＯＥＩＣ ◆毎日の勉強 ◆資格取得 ◆車の免許取得	◆アルバイト ◆部活レギュラー取り ◆料理 ◆目標探し
知 能 機 械	◆アルバイト ◆様々な知識の取り入れ ◆ＴＯＥＩＣ ◆資格取得	◆車の免許取得 ◆大学卒業 ◆毎日の勉強 ◆４年で卒業
電 子 ・ 光	◆車の免許取得 ◆英語のマスター ◆資格取得 ◆アルバイト	◆毎日の勉強 ◆大学卒業 ◆目標探し ◆部活の充実
情 報	◆友人作り ◆資格取得 ◆同好会の立ち上げ	◆部活の充実 ◆楽しい思い出作り ◆目標探し
社 会	◆ゴミ発生の防止	

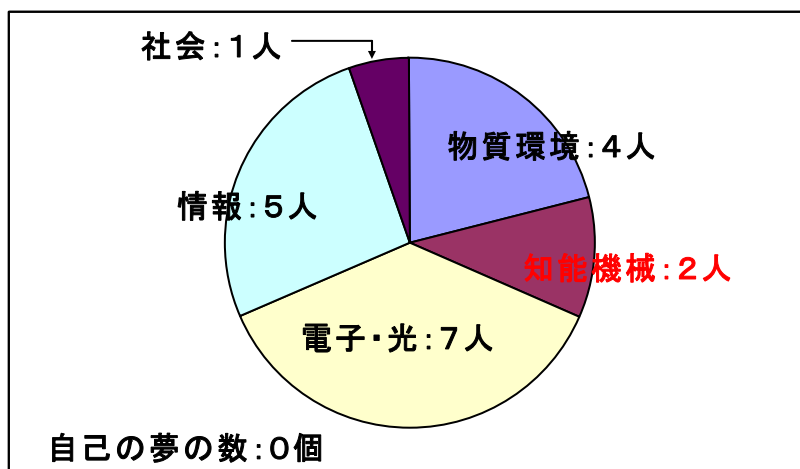
４）Ｑ－４（あなたの夢）の分析

「学科別」、「夢の数」別に見た学生数の分布を表－１４に示す。

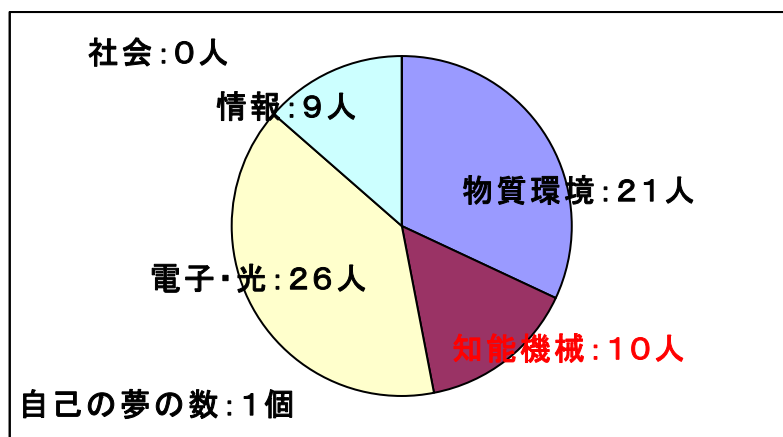
表－１４：「学科別」、「夢の数」別に見た学生数の分布（単位：人）

学科 \ 数	０個	１個	２個	３個	計
物質環境	４	２１	１４	１１	５０
知能機械	２	１０	８	８	２８
電子・光	７	２６	１４	１３	６０
情 報	５	９	９	１０	３３
社 会	１	／／	／／	１	２
計	１９	６６	４５	４３	１７３

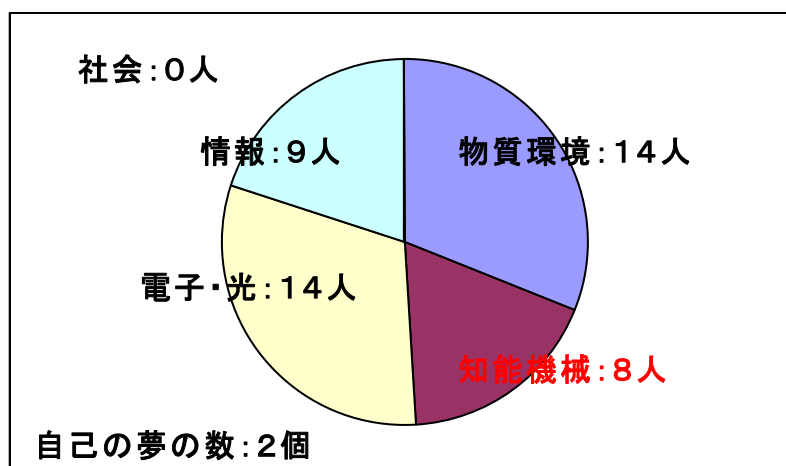
図－１４：自己の夢：０個の人数



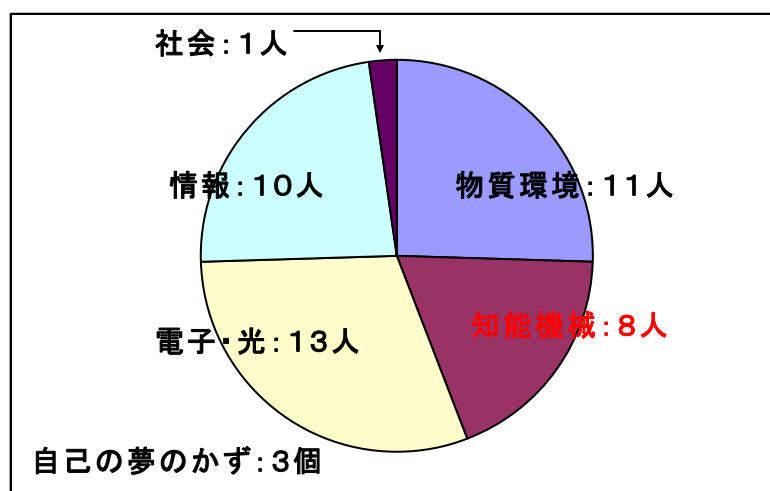
図－１５：自己の夢：１個の人数



図－１６：自己の夢：２個の人数



図－１７：自己の夢：３個の人数



「夢の数」として３個挙げた学生は、物質環境が２２％、知能機械が２８％、電子・光が２２％、情報が３０％であった。

一人当たりの「夢の数」は下表－１５の通りとなっている。

表－１５：一人当たりの「夢の数」

学科 \ 数	個 数	人 数	個数/人
物質環境	82	50	1.6
知能機械	50	28	1.8
電子・光	93	60	1.6
情 報	57	33	1.7
社 会	1	2	1.0
計	283	173	1.6

一人当たりの「夢の数」で見ると、各科ほぼ同じで、平均的に１個程度の「夢」を持っていることが伺える。

その「夢 上位１０」を学科別に、内容の善し悪しではなく、その一部を下表－１６の通りである。

表一１６：夢 上位１０

学 科	夢	
物 質 環 境	◆環境問題の解決 ◆世界に通じる人間 ◆４年で卒業 ◆３年で卒業	◆大学院進学 ◆新技術開発 ◆良い仕事に就く ◆悔いない生活
知 能 機 械	◆ロボットの研究・開発 ◆金持ちに ◆無難に生きる	◆特許を取る ◆エンジニア ◆大きな発明
電 子 ・ 光	◆大企業に就職 ◆平凡な生活 ◆夢探し ◆新技術開発	◆起業 ◆回路技術者 ◆ＰＣのマスター ◆プログラミングのマスター
情 報	◆ゲーム開発 ◆情報系の仕事に ◆好きな事を仕事にしたい ◆サークル活動の充実	◆４年間で卒業 ◆様々 ◆ ◆
社 会	◆年収７００万円の人間になる ◆自分に誇りを持つ	◆ 透き通った河川、海を存在させる

５）Ｑ－５（講演に関する意見等）

本講演に関する意見等を見ると、参加学生１９３人中１７３名（９０％）の学生からは、「チャレンジ」「夢」に付いての“大いなる感動”と“良き啓発の学び”の結果を示す意見が寄せられ、本日の「チャレンジ夢講座」の開講は有効なものであったことが確認できた。

寄せられた意見等を下手にまとめるよりは、直接、学生の感動を読み取って頂くために、本報告書の末尾に「アンケートの写し」を収録した。

是非、参加学生の“生の感動”を直接、確認して頂きたい。

V. 添 付 資 料

1. 「チャレンジ夢講座」アンケート

「チャレンジ夢講座」アンケートの写しを以下に添付する。

- 1) 物質環境システム工学科学学生分
- 2) 知能機械システム工学科学学生分
- 3) 電子・光システム工学科学学生分
- 4) 情 報システム工学科学学生分
- 5) 社 会システム工学科学学生分

2. 「チャレンジ夢講座」の報道記録

本講座の開講に当たり、本校広報部を通じて地域報道機関に対し「講座公開」の案内を出して頂いた。朝日新聞社が本講座の取材に訪れ、翌日の朝日新聞「こうち版」に山口 徹氏の講演が報道された。その内容を添付する。

VI. 終 わ り に

結 束 に

本「チャレンジ夢講座」は、平成１６年度、文部科学省「特色のある大学教育支援プログラム（特色ＧＰ）」の採択を受け、４年目の平成１９年度特色ＧＰ関連事業として企画したもので、通算４回目の公開講座であった。

学生は真剣に聴き、学生のアンケートからも今回の２講師の御講演の主旨・内容が十分に伝わり、理解され、「チャレンジ夢講座」の目的が達成されたことを確認することができた。

しかしながら、「自己のチャレンジ」や「自己の夢」に関しては“やや寂しさ”を禁じ得ない現状を見たような思いがする。与えられるものは受けるが、自主的、自発的なチャレンジ、夢に乏しい世代の特性であろうか。

平成１９年度で特色ＧＰは終了し、今後、このような「チャレンジ夢講座」提供のチャンスが無くなる事を思うと極めて残念である。

今後は、学生諸君が「チャレンジポイント科目」「ボランティア活動」等の諸システムを有効に活用し、積極的に自主的に一歩前に踏み出すことが出来る自己構築に邁進することを期待したい。

最後に、本「チャレンジ夢講座」の開講に当たりご協力頂いた教育講師を始め関係者各位に心から感謝を申し上げる次第である。

2007.7.31

文責：玉置 寛